

第2層協議体が 活動方針と実施計画（短期・中期）を持つことのすすめ

<大村 私見>

- 第2層協議体に限らず、活動主体の全メンバーがその活動方針（考え方、進め方）を理解し共有することは継続的な活動推進にとって最重要
 - 活動を進める中で迷いが生じた際に、常にここに戻る
 - 全メンバーの総意による推進であり、個人偏重を除外する
- 実施計画（達成目標と納期）があれば更にメンバー間の力を結集できる
- 活動方針及び実施計画は定期的に見直すことにより、外部環境の変化などによる計画とのズレに対応することができる
- 第1層／第2層協議体、地域包括ケア会議など関連する組織構成と意思決定の仕組み（会議体、意思決定方法など）を明確にし、正しく運用することにより活動全体の改善サイクルを回すことができる
- 厚労省の指導のもとスタートした「生活支援体制整備事業」は、推進事項、推進方法等に幅（よく言えば自由度、悪く言えば放任）がありそれぞれの個別協議体で個別的に設定し推進できる。しかしながら、個別の狙い、推進内容などを事例検討会等を通じて“見える化”することにより、個別の活動の質を向上したり他の協議体等との連携、共通課題の抽出や活動の発展性等につき理解や支援をより得やすくなることを認識すべき

1. 第2層協議体活動の基本構成と役割



多様な主体による提供体制の構築を主導・支援

<実施事項>

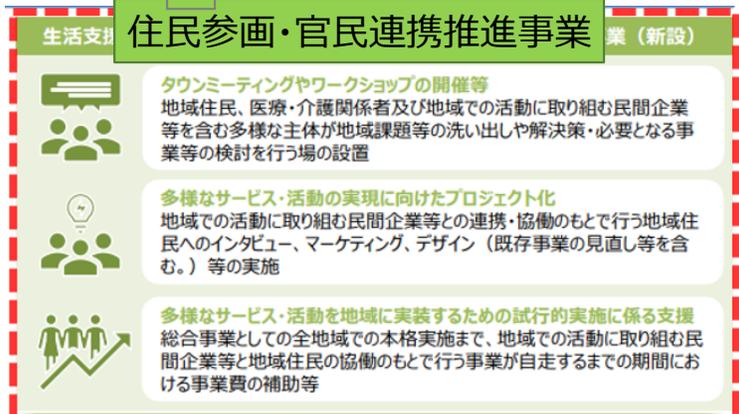
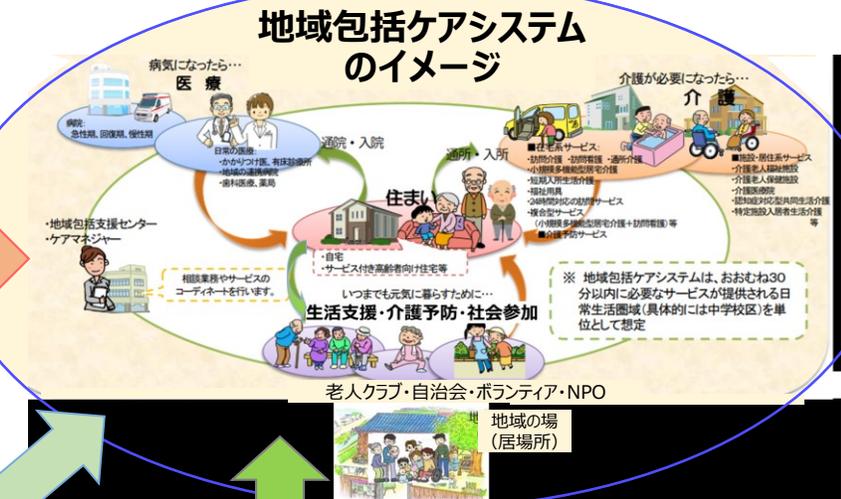
生活支援・介護予防サービス

- ニーズに合った多様なサービス種別
- 住民主体、NPO、民間企業等多様な主体によるサービス提供
- 地域サロンの開催
- 見守り、安否確認
- 外出支援
- 買い物、調理、掃除などの家事支援
- 介護者支援 等

高齢者の社会参加

- 現役時代の能力を生かした活動
- 興味、関心がある活動
- 新たにチャレンジする活動
- 一般就労、起業
- 趣味活動
- 健康づくり活動、地域活動
- 介護、福祉以外のボランティア活動 等

目指すべき最終イメージ



第2層 生活支援コーディネーターと協議体の役割

<開発目標>

資源開発

- 地域に不足するサービスの創出
- サービスの担い手の養成
- 元気な高齢者が担い手として活動できる場の確保 など

<主な実施事項>

- 地域ニーズの把握とサービス創出
- ネットワーク構築 (サービスのネットワーク化)
 - (第2層・第3層の)多様なサービス提供主体間の活動と情報の共有化
 - サービス提供主体間、地域住民、地域企業との連携・協働の体制づくり
 - 既存のサロン等の住民活動(「通いの場」)の充実に努める など

2. 「ぽつぽつ隊」の活動

「ぽつぽつ隊」活動の目標（現在）

『高齢者に優しい安心・安全で支え合いの出来るまちづくり』

生きづらさは高齢者だけではない

今後目指す目標のイメージ

高齢者や障がいを持つ人だけでなく全住民を対象とする

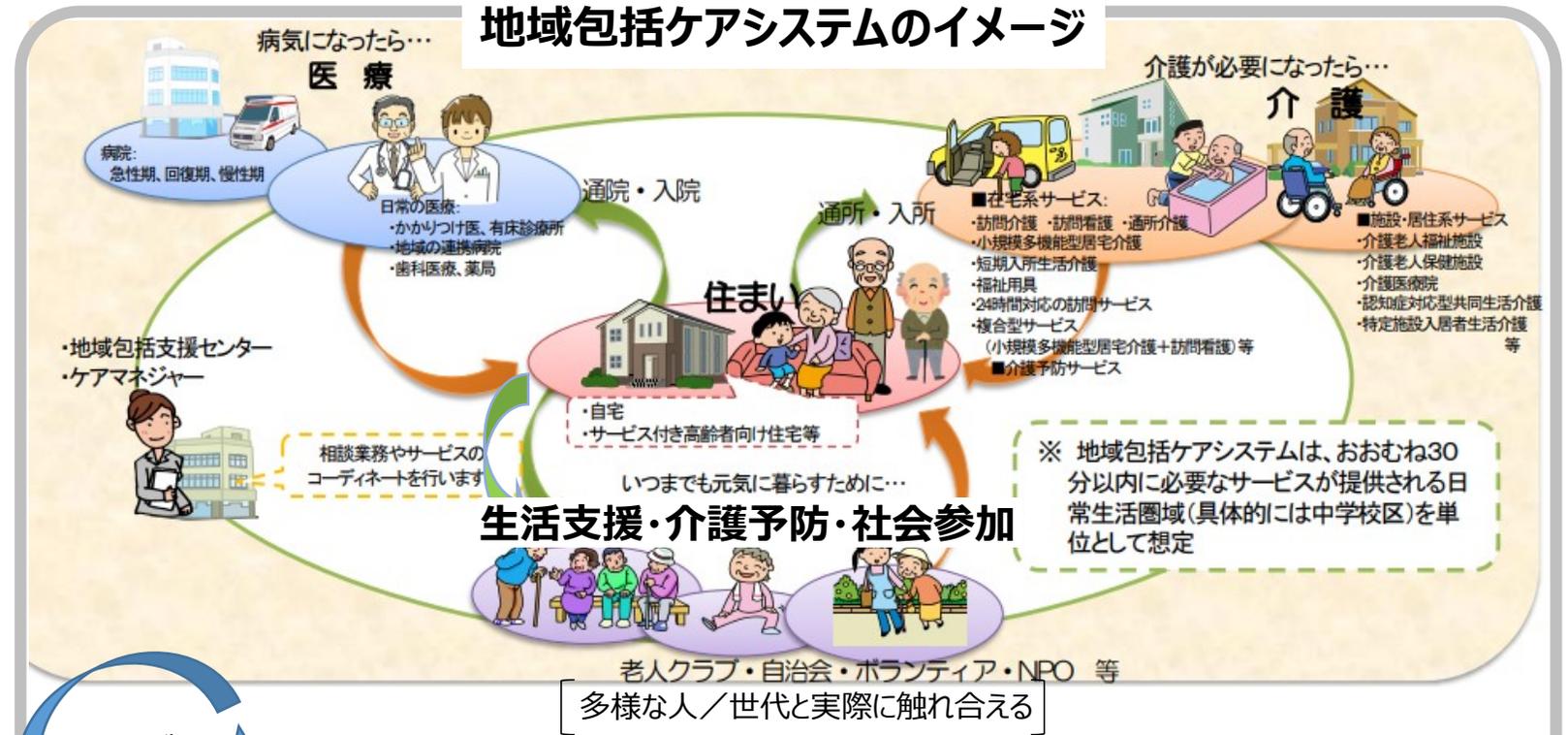
『インクルーシブな地域包括ケアシステム（共生社会）構築の一助となる』

様々な問題を抱える住民（＝ほぼ全住民！？）

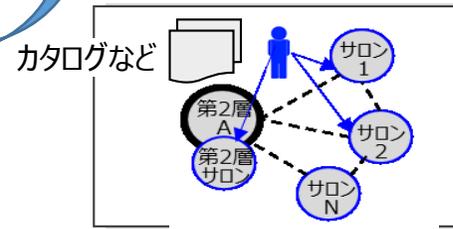
- ・高齢者だけの世帯
- ・高齢者一人暮らし世帯
- ・日中／夜間独居状態になる高齢者世帯
- ・障がい者のいる世帯(身体／知能／発達)
- ・生活に困窮している世帯
- ・子どものいる世帯
- ・妊産婦のいる世帯
- ・母子、父子世帯（老老介護）
- ・又は、介護終了後(高齢者でない)一人暮らし
- ・その他
- ・引きこもり
- ・ヤングケアラー
- ・LGBTQ
- ・生きづらさを抱えた住民
- （外国人には標識・看板がわからない、・・・）



地域包括ケアシステムのイメージ



「通いの場」



地域の「場」
(リアル「通いの場」)
既存住民活動の
ネットワーク化

「居場所」



地域の「場」(リアル)

地域の「場」(バーチャル)
ネットワーク

つながりたいけど、居場所に行けない
身体的・精神的・性格

「ぽつぽつ隊」が目指すこと（現在＋今後 → 将来）

サービス創出／改善・展開のサイクルを回す

※多様な住民：
自治会会員、会員でない人、自治会が
無い地区にお住まいの人

[Step 1] 地域ニーズの把握と個々のサービス開発と改善

<地区の特徴>

- 高齢者比率、高齢者の一人暮らしの比率が大きい地区。
（他地区も同様だが）
- 「防災・防犯」に関するサロン活動が無く、自治会の「防災活動」や「防犯活動」に関わっている人と、自治会会員ではない人（自治会が無いエリアの住民も含む）の知識や準備行動の格差が大きい。（地域防災力向上の障害）

<サービス創出>

- 2024年度は、自分の命を守る「自助」防災の内、地域住民全員が最小限やるべき準備・行動をプログラム化する。（月1回）
- 各拠点（サロン等）間でプログラムの改善を図る。

[Step 2] サービスの展開（「通いの場」と「居場所」）

<「通いの場」づくり>

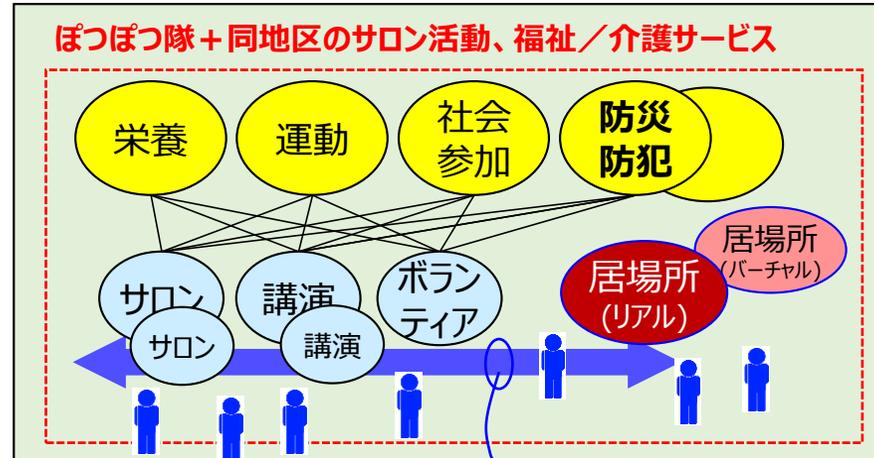
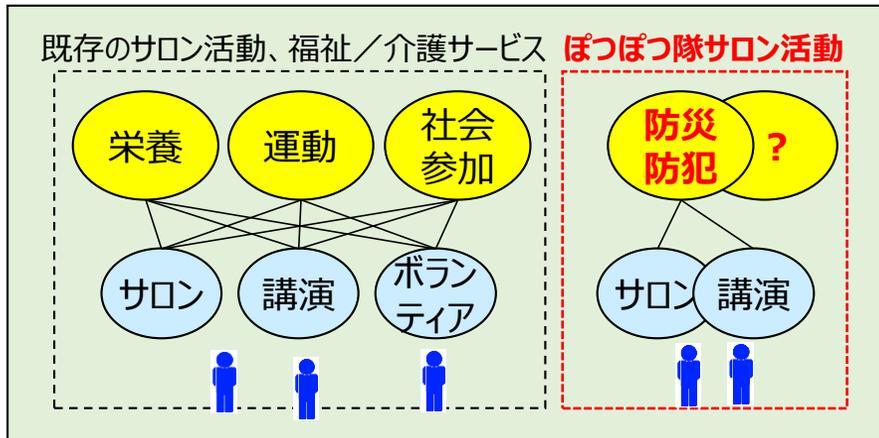
- N・S・C地区各拠点のプログラムのカタログを作る。
プログラムの内容、場所、開催日程を月別に網羅的に表示。
自身で月単位で参加予定を設定できる。
- ぽつぽつ隊が開発したサービスプログラム(以下プログラム)や各拠点（サロン等）のプログラムを実施できる拠点を増やす。
サービス提供主体間のネットワークづくり。

<「居場所」づくり>

- 各拠点のプログラムを集約した「居場所」づくり
→ 多様な住民※への情報アプローチ（バーチャル）
→ 多様な住民※が実際に触れ合える（リアル）??

[Step 3] インクルーシブ 地域包括ケアへ

- 「インクルーシブな地域包括システム」検討会を立上げる。
→ 多様な人の困りごとを吸い上げる？
→ インクルーシブ生涯教育等について
- 検討会で抽出される課題を解決する個別プロジェクトを推進
→ 行政、他のボランティア団体との連携



Step 1 ※における問題認識と課題

(※地域ニーズの把握と個々のサービス開発と改善)

2024年度「地域交流の場ぽつぽつ」サービス (最小限の防災活動に特化した年間サービス)

「自助」行動ガイド

- [1] 火を出さない [プログラム 1]
感震ブレーカーを設置しよう
- [2] 家具の転倒を防ぐ [プログラム 2]
転倒防止器具の実物見本
- [3] 食料などを準備しておく(日常備蓄) [プログラム 3]
日常備蓄のモデル例
- [4] トイレの備え [プログラム 4]
簡易トイレの作り方
- [5] スマホで防災 (スマホでの災害情報の入手方法) ... [プログラム 5]
- [6] 外出先で帰宅困難になった場合の行動ルール .. [プログラム 6]
- [7] 地域の防災活動・訓練の狙いと実施内容 [プログラム 7]
- [8] 自分でできる“薬の情報”管理 [プログラム 8]
- [9] 災害時に備える筋力トレーニング [プログラム 9]
- [10] 災害伝言ダイヤル(安否確認) 実習 [プログラム10]
- [11] 被災時のアロマセラピー [プログラム11]

<問題認識>

- ぽつぽつ隊も含め、それぞれの(サロン)サービス提供者が勝手にサービス策定しており、地域のサービスの場(いつ、どこで、何を)としてのバランス(栄養・運動・社会参加・防災等の網羅性?)の良否が分からない。
- サービスを届けたい人にどうやって知らせ、参加してもらうか?
自治会の会員でない住民、自治会が無い地域の住民
- 現在の場所は個人的に負担を掛けている、及び参加人数によっては手狭になっている。
- 2025年度のサービスはどうする?

<課題>

- 地域としてのサービスの過不足把握と新規サービス開発
→ 地域住民にアンケート?
→ 年間で複数テーマを検討(先ずは、防犯、認知症患者の介護など)
- 地域の人々に知ってもらい、参加してもらう方法
- 開催場所の選択肢を増やす
南街公民館、高齢者福祉館、南街地域集会所、...

<新規サービス案>

「防犯」 特殊詐欺、強盗、空き巣?

「認知症」の介護について?

既存のプログラムを「運動」「栄養」「社会参加」で分類すると「栄養」が殆ど無い!

- ・健康に良い料理を作り、みんなで食べる!
- ・管理栄養士 間宮先生の講話シリーズ化?

Step 2 ※における問題認識と課題

(※サービスのネットワーク化と拠点づくり)

<問題認識>

1. ぽつぽつ隊を含むサービスの共有化／ネットワーク化について
 - 共有化（複数の場所で同一のサービスが受講できる）出来るか？
 - 各サービス提供者が他の提供者のサービスを自前で実施できるか
→ サービス実行力（知識・提供方法）の教育、学習方法
 - 各サービス提供者が他のサロン等に講師として出向く
→ どのサービス拠点に出向く？
 - ネットワーク化（受けたいサービスの場所に気軽に外向く）の実現方法
 - サービス内容の見える化（カタログ化だけで良いか？）
 - 受けたいサービスへのアクセス方法（遠い場所にどうやって行く？）
2. 自身の生活の中や近隣地域自治会内外で感じる疎なコミュニケーション
 - 自治会内の高齢者間及び多様な世代間とのコミュニケーション停滞
 - 回覧板を回す時の挨拶が疎（最も基本的なコミュニケーション）
 - <高齢者> 身体的な理由で回せない
 - <その他年代> コミュニケーションするのは面倒／時間が無い。
 - 話す「場」が無い／少ない
 - すぐに相談できる、井戸端会議的な「場」（物理的な「場」）
 - SNSなどの適度な距離感もありがたい？（情報的な「場」）
 - 地域住民の情報格差と行動格差
 - 地域には多様な住民が混在
 - 自治会員・会員でない世帯・自治会が無い地域の住民
 - 地域のイベントに積極的に参加／ほとんど無関心
 - 多様な住民間の情報格差により、例えば防災の備えに対する思考と行動のバラツキが拡大

<課題>

1. 「通いの場」づくり
 - 実施要領検討会を立上げ、以下を検討する
 - ① 共有化（複数のサービス拠点で同一のサービスを受けることができる）
 - 例えば、ぽつぽつの「くらしの防災」を複数のサロン等で実施できる様にする。
 - 「くらしの防災」を他のサロン等に周知
 - サービス拠点の為のサービスの見える化（カタログ化／冊子化等）
 - 実施希望するサロンが独自に実施できる：サービス内容の伝授方法
 - ぽつぽつ隊から実施希望するサロンへ講師を派遣
 - ② 個別サービスのネットワーク化（受けたいサービスの場所に気軽に外向くことができる）
 - 全住民の為のサービスの見える化（カタログ化）（公民館等の独自サービスも含む）
 - 地域の人々が自身で参加したいサービスを選択し、気軽にアクセスする。
 - 参加の為の足の確保（乗合タクシー／ちよこバス 費用補助）
運転免許返上促進のためにも
2. 「居場所」づくり – 以下課題の検討会を立ち上げる
 - 情報の作り方
 - どんな情報：(1)集約するサロン、講演などのサービス内容アンケート？
(2)困りごと、支援依頼、支援申し出、趣味、個人的ブログ
(3)防災情報（行政HP／個人的状況連絡など）
 - 作り方：？
 - (自治会) 回覧板、DX(デジタル版回覧板＋コミュニケーション機能)
 - (住民⇔行政) DX（市公式LINE＋チャット等両方向機能？）
 - 情報の伝え方
 - 「居場所」の作り方要領策定と試行（リアル／バーチャル）
 - 居場所の基本要件：
 - * 欲しい情報、やりたい活動がある
 - * 運動・栄養・社会参加・防災等、バランスの良いサービス
 - * 多様な年齢、性別にとって心地が良い
 - * アクセスしやすい
 - 居場所（バーチャル）上記情報がつながっている
 - 居場所（リアル）上記情報を実体験できる

Step 3 における問題認識と課題

<問題認識>

- 「インクルーシブな地域包括ケアシステム」
としてどんなプログラムとするか、具体的内容、策定方法が分からない。
(インクルーシブ生涯教育の思いはあるが)

<課題>

- 「インクルーシブな地域包括ケアシステム」 検討会を立上げる
検討会メンバーは？
- 課題解決プロジェクトの推進方法
解決技術、試行予算、・・・

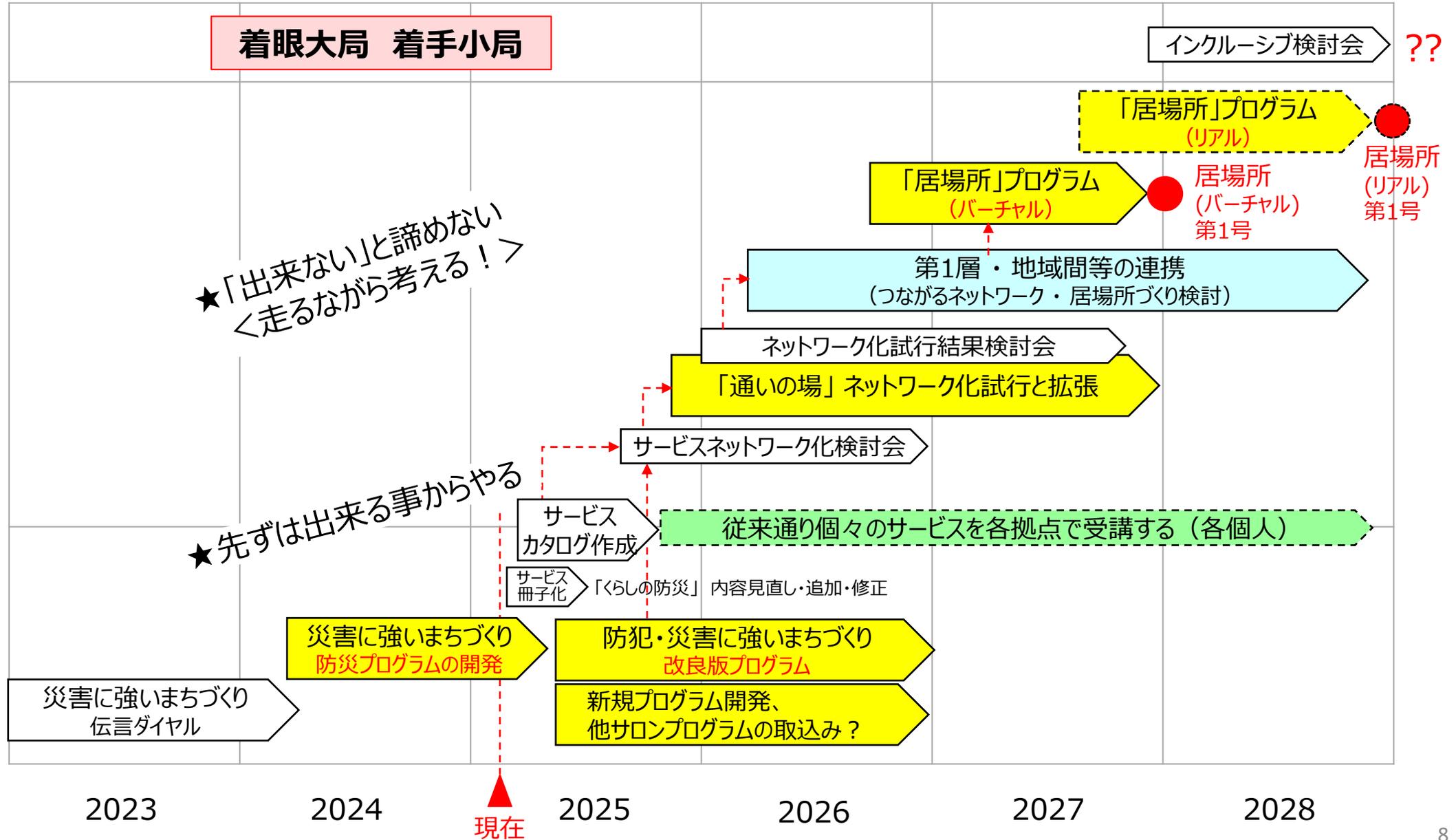
ぽつぽつ活動 中期計画（案）

毎年、見直しローリングする（常に以降3～5カ年の計画）

Step3
インクルーシブ地域
包括ケア

Step2
サービスの展開

Step1
地域ニーズの把握と
サービス創出と改善



2025年度 ぽつぽつ活動 実施計画（案）

No	実施項目	工程											備考			
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		3		
1	サービスの開発・実施 ①防犯関連講話 ・特殊詐欺 ・?? ・??	4/22 ●	○	○		夏休み									南街老人福祉館	
	②認知症関連講話				○											
	③くらしの防災 (防災の日を迎えて)							○								
	④お金の話 ??? 税金 年金 社会保障費								○	○	○					
	⑤????															
2	サービスの見える化 ①サービスのカタログ作成 公民館独自のサービス も含む	—■				夏休み										
	②カタログの配布??	- - - - ■ 配布先・方法検討														
	③「くらしの防災」見直し・冊子化	—■ 冊子体裁検討														